

令和3年度 県立学校プロジェクト学習推進事業
実施報告書【課題実践校用】

学校番号	19
学校名	富山県立富山東高等学校

学校の現状と課題	本校は、勉学と部活動を両立する普通科高校として、着実にその実績を積み重ねてきた。生徒は素直で何事にも誠意を持って取り組むものの、能動的・意欲的な取り組みは必ずしも十分とは言えない。これからの高度情報社会・グローバル社会においては、主体的に判断し行動できることや、加えてコース生徒には科学に関する基礎学力の向上が求められている。	
テーマ(特色)	生徒の主体的な学びと科学的思考力の育成	
設定した「テーマ」の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究や総合的な探究の時間では、各自が設定したテーマに対して主体的に研究を行うとともに、社会人の講話や大学教員による指導・助言を受けたことにより、科学的に探究する能力と態度がかなり育成できた。 ・自然科学コースの探究的な活動を支援し、その成果を普通科全体(学校全体)に広げることができた。 ・様々な最先端の科学・技術に触れたり、より学問に対する興味・関心を深めるために校外施設に出向いたりすることで、学校ではできない実習・実験を体験する事ができた。 	
実施内容(具体的に記入する)	<ul style="list-style-type: none"> ・第2、3学年自然科学コース出前講座では、富山大学より物理分野1名、生物分野1名の講師を招き、最先端の科学研究の紹介をするなかで、生徒の研究活動への興味・関心を高めていただくとともに、日本の科学が抱えている問題点や将来の方向性は何かを考える機会を作っていた。 ・第1学年自然科学コース サテライトキャンパスでは、富山県立大学から「ヤスデの酵素でくすりのTOYAMAに貢献する」と題し、講義とともに、多くの質疑応答に応じていただいた。 ・SDGs講演会では、富山県立大学より講師を招き、さまざまな側面からSDGsに関する講義をしていただいた。総合的な探究の時間における探究活動でのテーマ設定に大変参考になった。 ・総合教育センターでの実習をとおして、学校では実施しにくい観察・実験を経験することにより、高等学校での学習内容の理解を深めることができた。 ・コロナ禍で実施できなかった事業は、来年是非実施したいと考える。 	
取組による成果(プロジェクト学習推進の観点から)	<ul style="list-style-type: none"> ・県内でさまざまな研究活動が行われていることが、生徒に実感する事ができたことから、「多くの生徒が県内および近隣の大学に進学することで、将来、研究者や教職員などの地元へ貢献するような人材を育成する」という当初の目的にかなり近づくことができた。 ・2年普通科文系、理系の「総合的な探究の時間」では、創意工夫をこらした研究と、その成果として多彩なポスターを制作することができた。また、それらを製本して冊子にまとめたことから、生徒の達成感に大きく寄与することができたと思われる。 	
対象者(学年・人数など)	2年普通科文系・理系(206名) 1・2・3学年 自然科学コース(102名)	
実施実績	4月	課題研究開始(2年)
	5月	
	6月	出前授業(2・3年)
	7月	総合教育センター実習(1年) SDGs講演会
	8月	
	9月	サテライトキャンパス(1年)
	10月	
	11月	
	12月	
	1月	
2月		
3月	2年総合的な探究発表会	